

南無南無坊主達の潜む屋敷の奥へと進むと一人の女が現れた。

「ハッ、お久しぶりね。アフロサムライ。つて、言っても知ってるのはあなたが殺したバカな姉のほうだったかしら」

肌はほとんどを露出しており、豊満な肉体が色香を放つ。

美しい髪、冷徹な眼差し、そして見覚えのあるかんざし。

女は軽い口調で以前に彼に殺された女忍者の妹であることを告げた。

はあ、いい、お久しぶりね。アフロサムライ。

つて言っても知ってるのはあなたが殺した

無能な姉のほうだったかしら。

南無南無坊主には見つけ次第殺せとの

命令を受けてるけど……ふふ、久しぶりの

良い男をただ殺すだけじゃつまらないわね



「どう？殺される前に私と遊ばない？あなた、お菊って女を抱いたようだけど、あんな田舎くさい女なんかじゃ物足りなかったでしょう？しかも、裏切って南無南無坊主に殺されたってバカみたいな最期で笑えるわ。」

自慢じゃないけど、私のコレに挟まれた男はみんな一瞬でイッちゃうの」

女はケラケラと笑いながら、これ見よがしに己の胸を寄せる。



どう？殺される前に私と遊ばない？
あなた、お菊って女を抱いたようだけど、あんな田舎くさい女なんかじゃ物足りなかったでしょう？
しかも、裏切って南無南無坊主に殺されたってバカみたいな最期で笑えるわ。クスクス

自慢じゃないけど私のコレに挟まれた男はみんな一瞬でイッちゃうの



痛みも感じずに殺してあげるんだから、私って優しいでしょう。うふふふ。

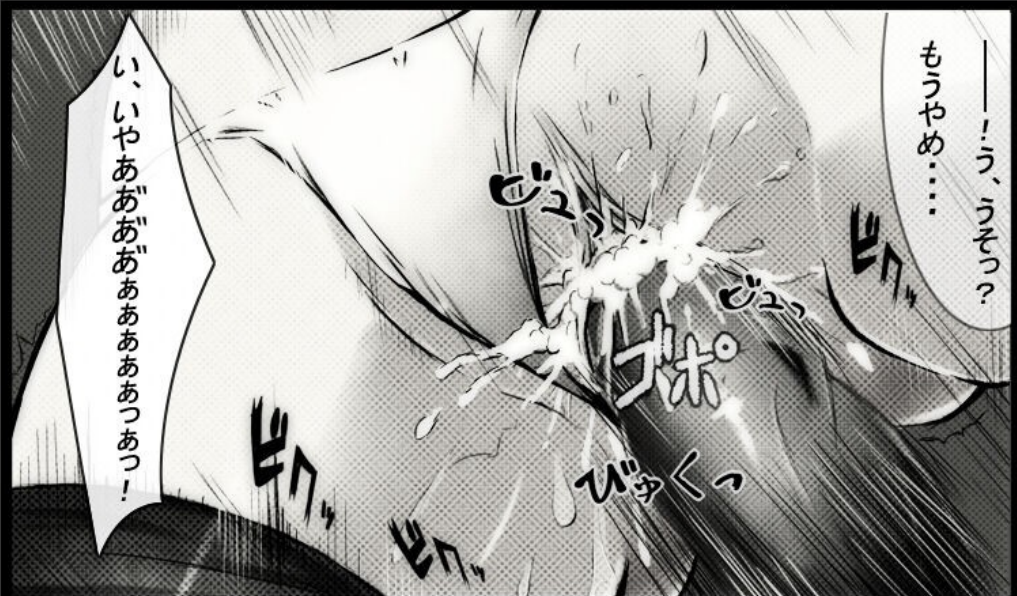
さあ、いっぱい
楽しみましょう

「痛みも感じずに殺してあげるんだから、私って優しいでしょう。うふふふ。さあ、いっぱい、楽しみましょう」

冷徹なまなざしで、幾多もの男を虜にし、幾多もの男のモノを啜ってきたであろう唇が艶かしく彼を誘う。

「——！っう、うそっ。もうやめ……」

女忍者の言葉も空しく、勢いよく大量の精液が彼女の中へと注がれる。



もうやめ……

い、いやあああああああつあつ！



ゆ、ゆるぎ……ない……

絶対……ゆるぎ……ない！

こんなこと……こんな……

「黙れ、外道」

「い、いやあああああああつあつ！」
悲鳴が響き渡る。

「ゆ、ゆるぎ……ない……絶対……ゆるぎ……ない！こんなこと……こんな……」

「黙れ、外道」

涙ぐみ、しかし憎悪に駆られた女忍者に、アフロサムライは冷徹に言い放った。

その瞬間、彼女の大きな胸を一筋の線が横に走ると、そこから彼女の身体に切れ目が広がっていく。

「な、なに？なんで…私の身体…いや…いや…」

徐々にずれていく己の身体に、くノ一は驚愕の表情で己に起きている異常に困惑する。

「貴様ごときお菊を笑う資格などない。これまで以上の恐怖を味わいながら逝けっ」



な、なに？なんで…私の身体…
いや…いや…

貴様ごとき、お菊を笑う
資格などない。
これまで以上の恐怖を味わい
ながら逝けっ。



いやっ。いやっ。死にたくない…
死にたくない…

たすけて…たすけて…

手遅れだ。死ね

「いやっ。いやっ。死にたくない…死にたくない…たすけて…たすけて…
手遅れだ。死ね」

「!?」

涙ぐむ女忍者の顔を一筋の線が走ると同時に血が滴り落ち、次の瞬間に彼女の顔がズレ落ちた。



「ふむ、やはりこやつでは役不足であったか」
アフロサムライが去ってすぐ、部屋に南無南無坊主が現れた。
そこには変わり果てた女忍者の亡骸。

ふむ、やはりこやつでは
役不足であったか



ジャステイスを倒した凄まじい剣技。
この切断面から見て、こやつは斬られたことに
気づかぬうちに死んだであろうな。意識は既
ないものの、身体がまだ生に執着しておるわい

胸部分で切断された亡骸には
刀が深く突き刺され、女の秘部を
突き抜けた部分から大量の精液と
彼女の血が勢いよく溢れ出ている。
切断されたにも関わらず中身を晒した
二つの乳房は激しく揺れ、亡骸は未だ
生にしがみついているかの様に
ビクンビクンと揺れ動く。
そしてすぐ側には胸から上を、顔を切断
され、中身を晒した女のもう一つの亡骸
が転がっている。
同様に未だ身体全体が激しく痙攣し、
切断された胸が揺れ動く。



…それにしても

「あのジャステイスを倒した凄まじい剣技。この切断面から見てこやつは斬られたことに気づかぬ
うちに死んだであろうな。意識は既にあるもの、身体がまだ生に執着しておるわい。
…それにしても」

「生意気な女だったが、噂以上の感触じゃ。射れただけで溢れ出しおったわ。前々から一度犯してみたかったが、こやつめはわしらに対して反抗的であつたからのお」
削げ落とされた顔は南無南無坊主に拾い上げられ、その艶かしかつた口に大きなイチモツがねじ込まれていた。

その表情は苦痛に歪み、目は大きく見開かれ、それが己の死に顔となるうとは彼女自身、知る術もなかつたであろう。

生意気な女だったが、噂以上の感触じゃ。
射れただけで溢れ出しおったわ。

前々から一度犯してみたかったが、こやつめは
ワシらに対して反抗的であつたからのお

だが、こうなつてはもう拒むことも出来ぬ。
惜しむべきは生きた状態で楽しみたかったが…
まあよい。身体のほうもあとで存分に楽しむとして、
貴様には今後はワシらの性処理玩具として扱わせて
もらうぞい。

ヒヤッヒヤッヒヤッヒヤッ

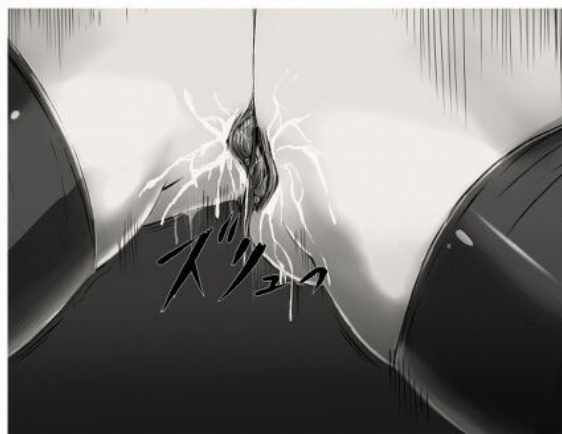
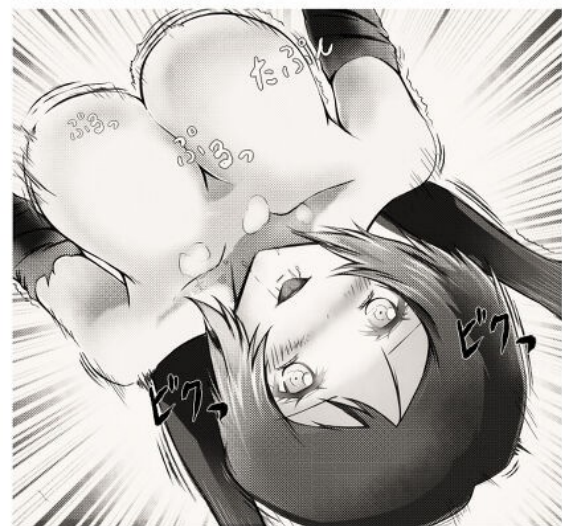


「だが、もう拒むことも出来ぬ。惜しむべきは生きた状態で楽しみたかったが、まあよい。身体のほうもあとで存分に楽しむとして、貴様は今後はワシらの性処理玩具として扱わせてもらうぞい。ヒヤッヒヤッヒヤッヒヤッバラバラになつたクノ一の亡骸、そして血に染まった部屋に、狂気に満ちた南無南無坊主の笑い声が響き渡る。」









Thank you!